



長瀬会長挨拶



北海道知事の来賓挨拶

◆平成29年度事業計画・予算を報告

◆平成28年度会費減免につき承認決定

◇総務部◇

第148回臨時代議員会を去る3月12日（日）、当医師会館8階会議室において開催した。

冒頭、本間議長により開会宣言があり、議事録署名人（室蘭市・開田博之代議員、釧路市・堀口裕司代議員）を指名した。その後、長瀬会長より挨拶があった。

挨拶（長瀬会長）

本日は早朝より、代議員の皆様には多忙を極める年度末に、また遠方からもご参集いただきありがとうございます。皆様には、日頃北海道医師会の諸活動に絶大なご支援、ご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

また、高橋はるみ北海道知事には、道議会対応で大変お疲れのところご臨席賜り感謝申し上げます。北海道における多くの医療問題の解決に、日頃より前向きな対応をいただきありがとうございます。特に数年来の懸案であった医療用ジェット機の導入にご尽力をいただき、この度、実現が叶い心から感謝を申し上げます。これは緒に就いたばかりで、これから多くの問題をクリアしなければなりませんので今後ともよろしくお願い申し上げます。後程ご挨拶いただくことになっておりますのでよろしくお願い

申し上げます。

本日の代議員会は、最初に平成29年度の本会の事業計画と予算について報告し、ご意見をいただきます。その後、議案審議に入り、平成28年度会費減免に関する件、当面の医療政策に関する件、並びに代議員提出案件につき上程し審議をいただきます。十分なご討議の程よろしくお願ひ申し上げます。

北海道医師会では平成28年度の東北・北海道医師会共同利用施設連絡協議会を、北海道新幹線の開業に合わせ函館市医師会の絶大なご協力を得て函館市で開催しました。また10月には全国学校保健・学校医大会を全国学校保健・安全研究大会開催に合わせ札幌で行い、両者とも好評裡に終わることができました。会員並びに役員の先生方、医師会職員の協力があつてのことで感謝を申し上げます。平成29年度は全国勤務医部会連絡協議会と日医医療情報システム協議会を北海道医師会が担当し開催することになっております。引き続きご協力、ご支援の程よろしくお願ひいたします。

日本経済は政権が変わり、積極的な脱デフレ対策に取り組んでおりますが、思うようにはいっていません。医療政策は経済状況に密接に関連しますので、厳しい状況が続いています。このような中で来年の診療報酬と介護報酬が同時改定となりますので

で、新年度以降の医療や介護の将来についての議論と、国の方向性が極めて重要になります。社会保障が滞るようなマイナス改定は絶対に受け入れられません。日本医師会の頑張りに期待するところです。

日本経済に影響を与える世界情勢は混沌としています。アメリカのトランプ大統領は一貫して自国優先を主張しています。ポピュリズムが台頭し、これまでのグローバリズム優位の世界が様変わりしそうです。どのような状況にも対応できる日本人の器用さも重要ですが、世界が間違った方向に向かわないように、安倍首相には指導力を発揮してもらいたいと願っています。

世界にさきがけて直面している超高齢社会に対して、地域医療構想を地域の関係者が集まり調整会議で意見を交わし、平成28年末構想策定を終えました。地域医療構想を基に平成30年に予定されている第7次医療計画、介護事業計画策定のため、準備に取りかかっています。北海道の将来に関わる重要な計画ですので、十分に討議を重ね納得いくものにして欲しいと思っています。

北海道の医師数は年々増加傾向にはありますが、札幌圏域と上川中部を除くと相変わらず医師不足に悩んでいます。医学部入学定員数増加および地域枠学生入学制度が始まって、その卒業生が昨今やっと卒業期を迎え、医師数増加が期待されていますが、増加が実感されるまでには至っていません。

新専門医制度の開始が迫って、地域医療に与える影響が問題視され、実施が先送りになりました。地域医療への影響と、制度開始目前に予定変更となり、目標をはぐらかされた研修医の気持ちを考えると複雑な感をおぼえます。北海道は勤務医の割合が他県と比べると高く、従って勤務医の勤務環境の整備が必要です。また、女性医師が年々増加し日常診療において女性医師の果たす役割が増し、なお一層勤務環境作りが重要性を増しています。北海道医師会では、女性医師を含む勤務医の方々との意見交換の場を重要な政策課題として活動しています。種々の会合の場に保育室を設置する機会も増えています。

今年度の事業計画の詳細とそれに関わる予算について説明をいたします。忌憚のないご意見をお願いいたします。

日本医師会の横倉会長は、本年9月に東京でアジア太平洋州医師会連合（CMAAO）の総会を開催します。また10月からは世界医師会会長の任につかれます。世界医師会会長は武見太郎、坪井栄孝元会長に次いで3人目になります。日本の医療政策および医療が世界に認められた証左であると誇りに感じます。医師の総てが日本医師会に加入することを強く願っています。

北海道医師会会員の皆様には、ご健康でご活躍されますことを念願して開会にあたっての挨拶といたします。と述べ、続く来賓挨拶では、高橋はるみ北

海道知事より祝辞をいただいた。

◇

議案第1号「平成28年度会費減免に関する件」については、平成28年度に申請のあった申請者の会費減免につき理事者提案のとおり承認された。

次いで、平成29年度事業計画ならびに平成29年度予算について、理事者からの報告を承認した。

その後、当面の医療政策について、理事者よりそれぞれ「総論」（笹本常任理事）、「地域枠医師の配置、研修等に係る見直し」（小熊副会長）、「認知症に係る診断書提出命令制度－改正道路交通法における高齢者対策－」（林常任理事）、「新専門医制度－現在までの決定事項について－」（小熊副会長）の詳細に説明があり、最後に笹本常任理事より本代議員会の名において決議文作成の提案がなされた。

昼食休憩後、代表質問ならびに一般質問を受け、理事者からそれぞれ答弁を行った。

◇代表質問◇

1. 大道光秀 代議員（中央ブロック）：
「薬価制度の見直しについて」
（答弁：橋本常任理事）
2. 川嶋栄司 代議員（道北ブロック）：
「介護療養病床廃止と北海道の地域包括ケアの展望について」
（答弁：藤原副会長）
3. 外園光一 代議員（後志ブロック）：
「認知症に係る診断書提出命令制度について」
（答弁：林常任理事）
4. 後藤 琢 代議員（道南ブロック）：
「災害時医療体制の構築について」
（答弁：小熊副会長）

◇一般質問◇

1. 白崎修一 代議員（札幌市医師会）：
「受診時定額負担について」
（答弁：笹本常任理事）
2. 松村茂樹 代議員（札幌市医師会）：
「北海道地域医療構想について」
（答弁：笹本常任理事）
3. 立花 啓 代議員（札幌市医師会）：
「患者負担増計画と18年度医療介護同時改定についての意見」
（答弁：橋本常任理事）

4. 今野 敦 代議員（北見医師会）：
「認知症サポート医養成研修の郡市部での開催
について」
（答弁：林常任理事、藤原副会長）

質問終了後、起草委員会で検討した決議案（別掲）
を採択した（この決議文は日本・都府県・郡市医師
会、政府閣僚、政党、国会・道議会議員、北海道知

事、道内自治体首長、「日本の医療を守る道民協議
会」構成団体およびマスコミほか関係各方面に送付
し、各項目の実現に向けて要請した）。

最後に、長瀬会長より閉会の挨拶が行われ本代議
員会の全日程を終了した。

〈事業計画・予算関係、質疑応答等は、順次当会
ホームページに掲載予定〉

決 議

現在、欧米諸国や朝鮮半島情勢が緊迫化する中、特にトランプ米国大統領の発言が注目される。同氏の施政方針演説の中では、オバマケアの廃止を含む医療保険改革、TPP からの離脱など、いずれも我が国にとって重要事項である。

また、国内においては、二度にわたるアベノミクスによる経済・財政政策によっても、未だデフレ脱却には至っていない。政府は、国民にとって安全・安心な生活を送ることが可能となるよう努める義務があり、将来にわたり社会保障費の財源を十分に確保すべきである。

北海道において平成 29 年度は、30 年度からスタートする第 7 次北海道医療計画や北海道保健医療福祉計画をはじめとした様々な計画の準備段階に入る非常に重要な 1 年である。道内各
地域の状況を十分に考慮しながら慎重に協議を進めていく必要がある。

全国的に医療の集約化が進む中で、同時に取り組まなければならないことの一つに、医療機関への安定したアクセスの確保がある。JR 北海道の路線を維持し、メディカルウイング（医療優先固定翼機）や道内航空路線の利便性を向上させて地域医療の確保を目指さなければならない。

われわれ医師は一致団結し、国民が安心して日常生活を送ることができるように良質な医療を確保・提供し続けなければならない。

その実現のため、以下の事項を決議する。

記

- 一、世界に冠たる国民皆保険を堅持すること
- 一、十分な社会保障費を確保し、保険診療の萎縮と患者の医療費負担増を招かないよう配慮すること
- 一、医師不足、医師の地域・診療科偏在への対応にあつては、地域の実情を十分に尊重すること
- 一、改正道路交通法における認知症高齢者対策は、実情に配慮し柔軟に対応すること
- 一、新専門医制度は、地域医療の崩壊を招くことのないよう実施すること
- 一、メディカルウイング（医療優先固定翼機）の本格運航をさらに推進すること
- 一、医療機関の経営を脅かす控除対象外消費税の抜本的解決を図ること
- 一、地域医療構想の具体的展開や地域包括ケアシステムの構築に十分資するよう、地域医療介護総合確保基金を柔軟に活用できる仕組みを作ること

平成 29 年 3 月 12 日

一般社団法人北海道医師会
第 148 回臨時代議員会